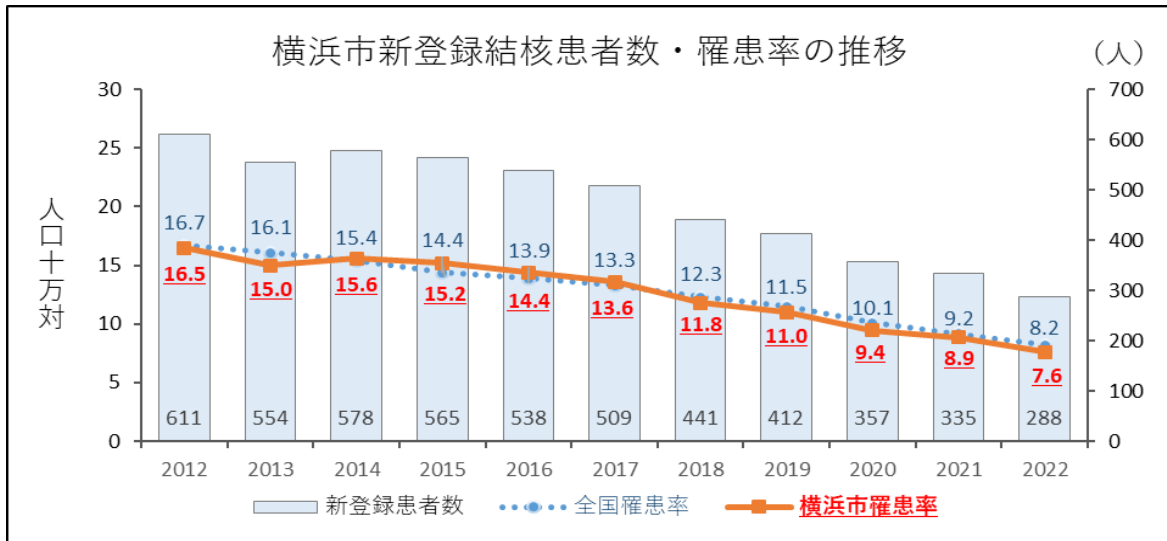


横浜市結核通信

発行 2023年11月
 担当 横浜市医療局
 健康安全課結核担当
 電話 045(671)2729

新登録結核患者数と罹患率の推移

横浜市の2022年1月1日～12月31日に新たに登録された結核患者数は288人、結核罹患率(※1)は、7.6でした。年々減少していますが、引き続き、早期発見・早期治療、治療完遂への支援等が求められています。

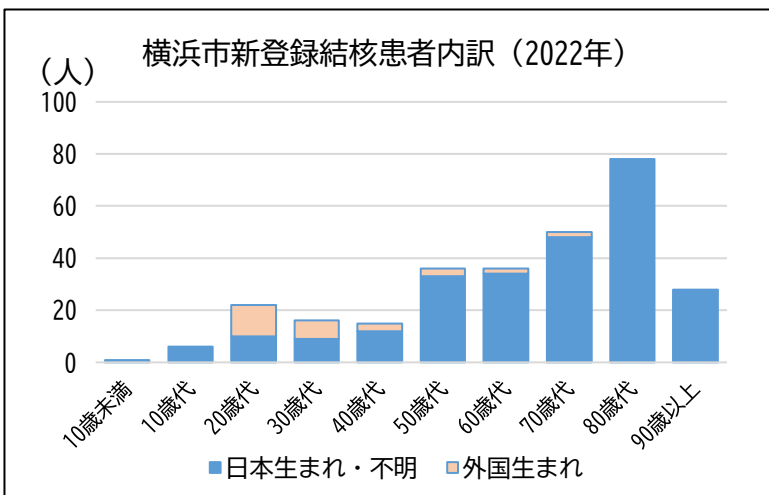


※1 罹患率：1年間の新登録結核患者数を人口10万対で表したもの

横浜市の新登録結核患者のうち20代では半数以上が外国出生者です

日本では過去の病気と思われがちですが、今でも世界の死亡原因のトップ15に入り、世界ではエイズ、マラリアと並ぶ「世界の3大感染症」の1つに挙げられます。

横浜市を含め、日本の結核患者の若年層では外国出生者が増えています。今後結核高まん延国からの在留外国人の増加とともに外国出生者結核の増加が予想されます。



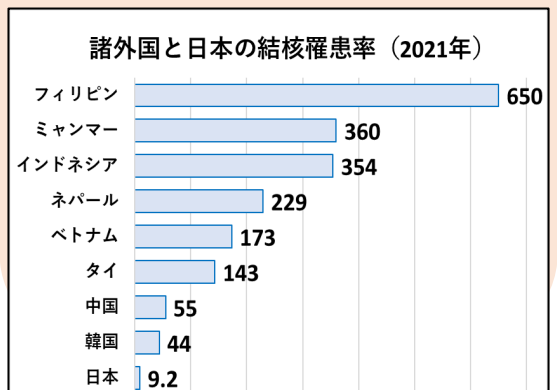
世界の結核

世界では、総人口の約4分の1が結核に感染している!

新たな発病者数: 1,060万人

死亡者数: 160万人

(2021年)



結核とは

主に結核菌によって引き起こされる感染症です。

肺に炎症が起こる肺結核が一般的ですが、全身の臓器に感染します。

感染してもすべての人が発病するわけではなく、健康であれば免疫の働きによって抑え込めます。

病気などで免疫力が落ちると、抑え込まれていた結核菌が再び活動をはじめ、発病する可能性があります。



感染 結核菌が体内に入り、免疫力によって抑え込まれ、休眠している状態。症状はなく、人にうつす心配はありません。

発病 身体の中の結核菌が増殖し、肺など身体の一部に炎症を起こし、発熱や咳・痰といった症状が出た状態。人にうつす可能性があります。

排菌 痰の中に結核菌が含まれており、菌が体外に排出されている状態。ほかの人にうつす可能性が高いため、入院が必要です。

症状

- ・2週間以上続く咳
- ・痰・発熱・血痰
- ・胸痛・全身のだるさ
- ・寝汗・体重減少 など



治療 6か月から9か月間、複数の結核薬を内服します。副作用などにより、薬の種類が途中で変わることもあります。治療を始めると症状はよくなっていきますが、治療期間の途中で服薬をやめると菌の増殖が抑えきれず、治りません。最後まで治療を続ける必要があります。



絶対入院しなければいけない？
排菌している場合、感染の拡大を防ぐため原則入院による治療が行われます。排菌していない場合は通院による治療となります。



治療を続けていけるか不安…

- ・結核の治療を安心して続けていただくために、結核の医療費を一部公費で負担する制度があります。
- ・治療が確実に続けられるよう、保健師が治療のサポートを行います。

*結核についてより詳細な情報は、公益財団法人結核予防会ウェブサイト(※2)をご覧ください。多言語で説明されています。

※2 https://www.jatahq.org/about_tb/qa#foreigner



結核定期健康診断補助事業

日本語教育機関の生徒に実施した結核定期健康診断に対して、費用負担の軽減があります。結核の早期発見のために、結核定期健康診断の実施は重要です。

- 補助内容:胸部エックス線検査の費用(精密検査は補助対象外)
- 制度の利用方法:申請書類を提出
- 申請書類提出締め切り日:令和5年12月8日(金)必着
- 申請書類提出先:所在区の福祉保健センター福祉保健課 健康づくり係

*申請書類等は横浜市ホームページからダウンロードし、手続きを行ってください。

横浜市 結核定期健康診断補助事業 | で検索